

入場無料 事前申し込み不要

一般の方
も歓迎致
します

ヒューマンライフイノベーション研究所
第三回 公開シンポジウム

健康な命をまもるイノベーション

2018年

12月20日 (木) 15:00-18:00

お茶の水女子大学【共通講義棟2号館201室】

司会 ヒューマンライフイノベーション研究所長 藤原葉子

開会あいさつ ヒューマンライフイノベーション開発研究機構長・理事・副学長 森田育男

15:05~15:15 研究所紹介

ヒューマンライフイノベーション研究所長 藤原葉子

15:15~15:45 印刷技術を用いた再生医療

ヒューマンライフイノベーション開発研究機構長・理事・副学長 森田育男

15:45~16:15 ゲノム医療を支える遺伝カウンセリング

ヒューマンライフイノベーション研究所 遺伝学部門 助教 佐々木元子

16:15~16:45 母が子を強くする—自然界では？

ヒューマンライフイノベーション研究所 発生・進化学部門 助教 佐藤敦子

(休憩)

16:55~17:25 健康な脳を支え、守る、グリア細胞のはたらき

ヒューマンライフイノベーション研究所 生化・代謝学部門 助教 毛内拡

17:25~17:55 嗜好性や加工性に着目した新野菜

—美味しさの先に健康を楽しむ

ヒューマンライフイノベーション研究所 食品科学部門 教授 森光康次郎

閉会あいさつ

ヒューマンライフイノベーション研究所 糖鎖科学部門長 相川京子

【主催】お茶の水女子大学 ヒューマンライフイノベーション研究所

【お問い合わせ先】ヒューマンライフイノベーション研究所事務局

〒112-8610 東京都文京区大塚2-1-1

E-mail: office-ihli@cc.ocha.ac.jp

Website: <http://www-w.cf.ocha.ac.jp/ihli/>



お茶の水女子大学
Ochanomizu University

ヒューマンライフイノベーション研究所 第三回 公開シンポジウム 健康な命をまもるイノベーション

2018年12月20日(木) 15:00-18:00
お茶の水女子大学 【共通講義棟2号館201室】

印刷技術を用いた再生医療

ヒューマンライフイノベーション開発研究機構長・理事・副学長 森田育男

再生医療は、21世紀の医療として注目されている。これら再生医療では、血管を再建することが難しい課題となっている。演者らは、長年の血管細胞の研究を基盤として、印刷技術をバイオの分野に導入し、ヒトの血液から血管を作る細胞を単離・増殖する方法を確立するとともに、体外で自由自在な形に作成する技術を開発した。この作成した血管を虚血モデル動物に移植すると、血流が復活することも確認できた。しかも、この技術は、血管を構築するだけでなく、骨を作ることなどにも応用することができる。さらに、本方法は、2種類の細胞を積層することもでき、多くの組織の再生に用いることが可能である。本講演では、演者らが研究している体性幹細胞を用いた再生医療の可能性を示したいと思う。(大日本印刷株式会社との共同研究)

ゲノム医療を支える遺伝カウンセリング

ヒューマンライフイノベーション研究所 遺伝学部門 助教 佐々木元子

近年、個人のゲノム情報を医療や健康管理に役立てようという「ゲノム医療」への期待が高まっている。ゲノム医療では、生まれつきもっている遺伝子の状態によっておきる疾患だけでなく、後天的に遺伝子が増えたり減ったりした「がん」なども取り扱っている。このゲノム情報を取り扱う場合、本来知りたかったこと以外の情報を知ることになったり、家族においても影響することがわかったりすることがあり、正しい情報を伝え自己決定を支援する「遺伝カウンセリング」が大切と考えられている。この遺伝カウンセリングを専門とする対人援助職が、認定遺伝カウンセラーであり、ゲノム医療を支える人材として期待されている。

「がん家系と言われた」「病気が子どもに遺伝しないか」「遺伝子の検査をした方がよいか」など、様々な相談に対応する遺伝カウンセリングと、その現場で働く認定遺伝カウンセラーについて、本講演でご紹介する。

母が子を強くするー自然界では？

ヒューマンライフイノベーション研究所 発生・進化学部門 助教 佐藤敦子

生物の発生は、環境や遺伝的変異にある程度緩衝し、一定に保たれている。このしくみは発生緩衝と呼ばれ、半世紀近く前に想定されたが、実際の分子機構の全貌は未だに明らかになっていない。これまでのショウジョウバエや植物での研究から、タンパク質の構造を維持するHsp90という分子が注目されてきたが、近年の研究では、他の多くの分子が関係した複雑な現象であることが明らかになりつつある。本講演では、これまでの研究の紹介に加え、発生緩衝が母性遺伝するという近年の研究の成果と、今後の展望について紹介する。

健康な脳を支え、守る、グリア細胞のはたらき

ヒューマンライフイノベーション研究所 生化・代謝学部門 助教 毛内祐

医療技術の発達により、身体健康寿命は延長し続けている。ところが、脳の健康寿命は未だ追いついていない。人工知能やロボットの技術が発展する近未来社会において豊かな生活を送るためには、脳の健康こそが重要である。脳と言うと、神経細胞と血管が有名だが、実は他にもグリア細胞と呼ばれる脳細胞がある。グリア細胞は、これまで、神経細胞の隙間を埋める支持細胞に過ぎないと思われてきた。ところが、実は脳の健康を保つために普段から重要な働きをしていることが、長年の基礎研究の積み重ねにより徐々に明らかになってきている。本講演では、その一例として、脳卒中後の回復におけるグリア細胞の意外なはたらきについて、現在進行中の研究結果の一部を紹介する。

嗜好性や加工性に着目した新野菜ー美味しさの先に健康を楽しむ

ヒューマンライフイノベーション研究所 食品科学部門 教授 森光康次郎

嫌われる風味を軽減した新野菜（ピーマン、ダイコン）を開発した。苦味の少ないピーマンと、加工後に黄変やたくあん臭が発生しないダイコンにより、子供が嫌う野菜を減らしたり、オナラ臭の少ないたくあん漬ができた。一方、風味を軽減した新野菜は、従来の野菜と比べて明らかな成分の違いがある。新野菜が発端となった健康面でのメリット（可能性）を推察したい。健全な食生活には、「美味しさを実感し、生理機能は気軽に楽しむ」というスタンスが重要なものかもしれない。



お茶の水女子大学
ヒューマンライフイノベーション研究所
Institute for Human Life Innovation

- 〒112-8610 東京都文京区大塚2-1-1
◎ 東京メトロ丸の内線 「茗荷谷」駅より徒歩7分
◎ 東京メトロ有楽町線 「護国寺」駅より徒歩8分
◎ 都営バス 「大塚二丁目」停留所下車徒歩1分

会場へのアクセス

